

⑤Int. Cl. ⑥日本分類 日本國特許庁 ⑦特許出願公告
 A 01 n 30 F 322 昭46-28797
 30 F 45
 30 F 4
 30 F 922 ⑧特許公報 ⑨公告 昭和46年(1971)
 発明の数 1
 (全4頁)

1

2

④ベンジールアルコールを有効成分とする殺虫組成物を示せば

第 1 表

①特 願 昭43-4588
 ②出 願 昭43(1968)1月27日 5
 ③発 明 者 出願人と同じ
 ④出 願 人 塩井健男
 東京都文京区目白台3の22の6

発明の詳細な説明

ベンジールアルコールは植物の諸害虫に対して顕著な殺虫効力がある事は知られて居るが植物に対して甚だしい薬害を与えるので農薬として使用する事ができない。本発明はこれにグアヤク脂を加える事に依り植物に対して薬害がほとんどなくなる事を発見し、これを利用してベンジールアルコールを殺虫農薬として或いはその共力剤として特に在来の殺虫剤に対して抵抗性を持った害虫に対しその殺虫力を回復増強する共力剤としての新しい道を開いたものである。

ベンジールアルコールは1%程度の溶液(有機溶剤例えばメチールアルコール、或いはメチールアルコールとエチールアルコールの混和液或いは適当な界面活性剤を配合した水性乳濁液)にても已に植物の弱い部分特に新芽、新葉、花、蕾、果実等に対し甚だしい薬害を示すのを常とする。併し今これにグアヤク脂を僅か0.2~0.4%に溶解する事に依り此の薬害を殆んど除く事ができる。ベンジールアルコールは0.5%以上5%程度まで

薬品の 名 称	検体 番号	I	II	III
ベンジールアルコール		2g	1g	0.5g
グアヤク脂		0.4g	0.2g	0.1g
メチールアルコール		47.6g	48.8g	49.4g
エチールアルコール		50g	50g	50g

上記の割合に溶かした検体のキクヒメアブラムシ、イバラヒゲナガアブラムシ、シジハバタの幼虫に散布した効力試験及バラに対する薬害試験の成績を示せば凡通りである。

キクヒメヒゲナガアブラムシに対する殺キクヒメヒゲナガアブラムシ(成虫の雌~2頭)のなるべく同じ状態に寄生したキク(大輪種)1株あたり20ccを散布を所定の場所(室温25℃湿度40%移し24時間後の生死数の状態を調査する記号は生存数を認めない+、かなり減るか生存虫若干を認める+、生存虫は散ほとんど変らない一等で示す。又検体は第